

海上保安庁の「観閲式」を見学して

内部統制本部 顧問 森 榮

2009年4月26日(日)、海上保安庁の「観閲式」と「総合訓練」が東京湾の羽田沖で開催されましたが、私も、田畑会長のお世話で見学する機会に恵まれました。

この「行事」は、「海上保安の日」(5月12日)に因んだ関連行事として開催されているもので、第1回の1949年(昭和24年)開催から数えて第54回目となりますが、今年の「行事」には、内閣総理大臣として、初めて麻生太郎首相が「特別観閲官」として参加され、記念すべき一日となりました。

今年の「観閲式」と「総合訓練」では、4,000人を超える見学者が見守る中、巡視船48隻、航空機20機が「集結」。船隊パレードでは波飛沫が上がる中、航行する巡視船から乗組員が観閲船隊に「敬礼」。飛行機隊は、ヘリコプターとプロペラ機が見学者を歓迎するかにように、私共のすぐ真上を低空飛行してくれました。人命救助を想定した訓練では、ヘリコプターからロープで降下した救助隊が漂流者を吊り上げ、見事に救出した瞬間、見学者達は一斉に大きな拍手を送っておりました。

「特別観閲官」を務められた麻生太郎首相は、「海賊対策として8名の海上保安官がソマリアに派遣される等、危険と困難が伴う任務に全力を尽くしている。安全・安心の海を実現するため一層、精励して戴きたい。」と訓示されておられました。



私にとって、「観閲式」も「総合訓練」も、見学するのは初めての体験であります。改めて「海の守り」の大切さを痛感すると共に、それを実現するための現場第一線における海上保安官の厳しい訓練と精進のご苦労は如何ばかりかと、思わず深い敬意を表さずにはいられませんでした。その中で、とりわけ嬉しく思ったことは、女性海上保安官の活躍でありました。それは、観閲船「やしま」の船上で海上保安庁音楽隊の演奏がありましたが、その40名前後の音楽隊員の中で、10名近い女性海上保安官が演奏活動をしていたことに強い感銘をうけたからです。

海上保安庁音楽隊は、創設以来20年を越えておりますが、
隊員は全員、日常の海上保安業務を「兼務」しているとのこと
であり、余程の旺盛なる使命感がなければ、厳しい「兼務」には
耐えられないのではないかとと思うところで。

いであ社女子社員の皆さんも、女性海上保安官のように、夫々の職場において、尚一層、活躍の場を広げることが、会社発展の「大切な要諦」となるのではないかと思料した次第です。

平成21年度「観閲式」及び「総合訓練」の開催概要

- 開催日：2009年4月26日(日)
- 主催：海上保安庁
- 開催場所：東京湾内
- 見学者数：約4,000人
- 参加勢力：巡視船48隻、航空機20機

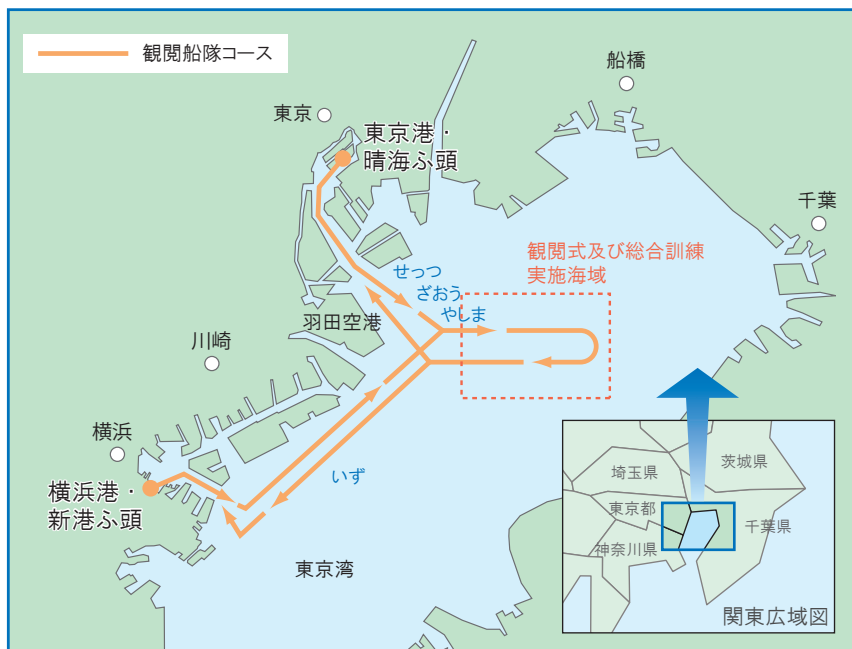


図 観閲船隊コース

観閲式及び総合訓練の流れ

観閲式(船艇)	14:35～
↓	(13分間)
関係機関船艇のパレード	
↓	
観閲式(航空機)	14:46～
↓	(2分間)
放水展示訓練	14:49～
↓	(4分間)
ヘリコプター編隊飛行訓練	14:50～
↓	(3分間)
人命救助訓練・海上防災訓練	14:54～
↓	(15分間)
密輸容疑船追尾・捕捉訓練	15:11～
↓	(9分間)
高速・機動連携訓練	15:22～
↓	(7分間)
フェアウェル	15:31～
	(12分間)